



雨に濡れながら防護柵を補修する参加者



子どもから大人まで力作 120 点がずらりと並ぶ

地域の芸術家が大集合

野田自治会「趣味の作品展」

地域住民の活動成果を発表しようとして、7月17日から19日の3日間、野田自治会が同地区の集会所「みちくさの館」で「第1回趣味の作品展」を開きました。出展者は、同地区の子どもか

ら高齢者まで幅広く、日ごろ趣味などで取り組んでいる約120点の作品が展示されました。昭和9年に起きた集中豪雨時の被害写真や大正10年ごろの同地区の写真、竹細工、書道、絵

など様々なジャンルの作品が並び来場者を魅了。中には、蓄音機などの骨董品などもあり、昔を懐かしむ人もいました。作品展には、多くの人が訪れるなど地域の輪も広がり、大盛況でした。

イノシシ被害に助っ人

下上菅の水田沿いに柵を設置

イノシシ被害から水田等を守ろうと、8月1日、下上菅地区で、被害対策用の柵を取り付ける作業が行われました。この日は、イノシシ対策を支援するボランティア団員「イノシシ団」のメンバーや地域住民など23人が作業に

参加。同地区水田沿いの斜面約500延に設置してある防護柵の上に竹を取り付け、ネットをつり上げました。参加者は、雨が降るあいにくの天候の中、雨具を着込み、笹や草木をかき分けながら足場の悪い斜面で約1時間半の

作業に汗を流しました。同地区では、毎年イノシシの被害が多いことから水田沿いに柵を設置していますが、積雪や風などでネットがゆるみ、効果が薄れてきたため補修を考えました。しかし、地域の高齢化や被害に手を焼くことから、稲作をする人が減少。被害対策に手がまわらなくなったため、

鳥取県が今年から結成したイノシシ対策のボランティア団員の派遣事業を活用しました。この事業は、県がイノシシ等による農産物被害を防ぐため、農家や集落を支援するもので、ボランティアを募集し、登録者で結成する「イノシシ団」を要請のあった地域に派遣するものです。（詳しくは10ページに掲載）

元気に泳ぐアユを夢中で追いかける

園児がプールでアユつかみ

園児たちに魚とふれあってもらおうと、7月21日、アユつかみが、町内保育所で行われました。この日は、根雨保育所に350匹、黒坂保育所に200匹のアユ

がプールに放されました。各保育所の園児たちは、元気に泳ぎ回るアユをいっしょけんめい追いかけて、びしょ濡れになりながらもアユつかみを楽しみました。

園児たちは「アユが元気になかなか捕れなかったけど楽しかった」などと話していました。アユつかみは、子どもたちに魚とのふれあいを通じて水環境について考えてもらおうと、町水産振興連合会が毎年企画。根雨水産振興会が根雨保育所、黒坂水産振興組合が黒坂保育所を訪れています。



「捕まえた」アユをすばやくバケツへ